



研究の動機

- 1: 最近、地域で子ども食堂をよく見かけること
わたしたちの住む街にも子ども食堂ができ、その取り組みや効果に興味を持ったから。
- 2: 「孤食」という言葉に着目して
貧困や家庭環境による子どもの「孤食」が社会問題化して
いてそれが子ども食堂と関連しているという記事を見て気
になったから。
- 3: 班のみんなが
「子どもに関わるような職業」につきたい
と考えていて教育現場だけでなく他の場所では子ども達に
対してどのような活動などがあるか知りたかったから。

先行研究

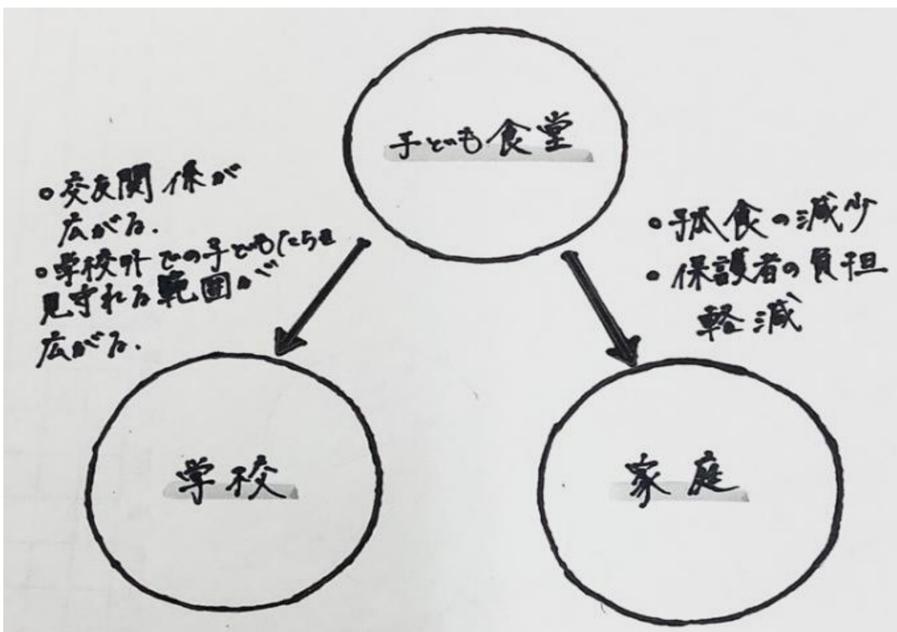
日本の子どもの六人に一人は貧困の状態にある。また、生活保護の条件を満たせず、労働を優先してしまい、親が子どもとの時間が取れなくなっているため、「心の貧困」を抱える子どもが増えている。
子ども食堂での楽しみは「公園で遊ぶこと」「みんなでご飯を食べること」である。

常盤小学校区における子ども食堂の必要性と役割
<http://polgeog.jp/wp-content/uploads/2020/03/kurita2019.pdf>

閲覧日 2022/09/14

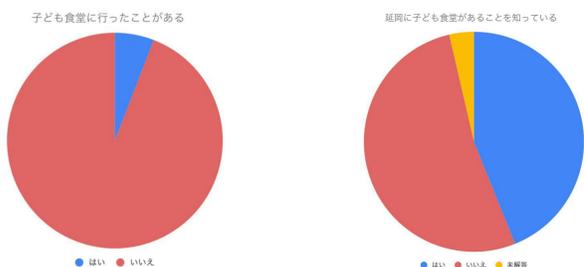
仮説

子ども食堂が学校教育や家庭にもたらす良い影響



事前アンケート

12月5日に延岡高校の2学年の232人の生徒にアンケートをとった。



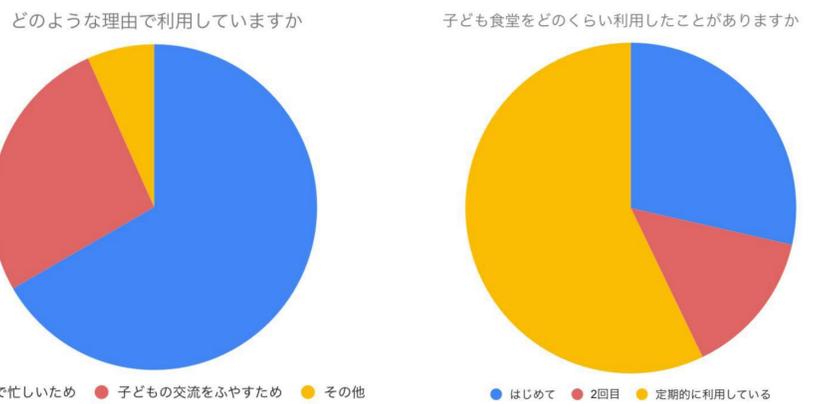
アンケート結果

- ・子ども食堂を利用したことがない人が多い
- ・高校生にはあまり馴染みがない

研究結果

12月24日に「今山子ども食堂」と「ととろ食堂」を訪問し、その日に利用していた13人の方々にアンケートをとった。

利用者アンケート



利用者にとってどのような面で役立っているか

- ・仕事が早朝で忙しい時にお弁当を作らなくていい
- ・子どもが孤食をしなくていい
- ・精神的、体力的に楽
- ・バランスのいい食事がとれる
- ・食の見聞が広がる

私たちが子ども食堂に訪問して気付いたこと

- ・高齢者の利用が多かった
- ・地域の人々が食材を持ち寄っていた
- ・定期的に利用している人が多かった
- ・運営側も食堂を利用する側も憩いの場になっていた

考察

- ・子どもの利用が多いと思っていたが、子どもと同じくらい高齢者も利用していることが分かった。
- ・利用している理由としては、仕事が忙しいためやお弁当を作る手間が省けるためが多かった。
- ・地元の方からの食材提供によって子ども食堂の運営が成り立っていた。
- ・逆に利用者が感謝の気持ちを込めて、洗剤などを渡していた。
- ・季節のイベントに合わせて、お弁当の他にもお菓子やケーキなどを配っていた。
- ・高校生だけでなく、小学生のボランティアの子もいて、ボランティアの方の年齢層が幅広かった。

今後の課題

- ・私達が子ども食堂について調べた時にネットから入手できた情報が少なかったため現代の人に合わせたSNSを利用した発信をしていく
- ・地域の企業や飲食店、ボランティアの方からの食材の寄付など子ども食堂に関わる人を増やし、さらに子ども食堂を活性化させる

↓
自分たちがボランティアに積極的に参加し、SNSで利用者だけでなく、寄付などの形で関わる人に向けても情報を発信する